

## 第二朗読 ガラテヤの信徒への手紙 6:14-18

(皆さん、) このわたしには、わたしたちの主イエス・キリストの十字架のほかに、誇るものが決してあってはなりません。この十字架によって、世はわたしに対し、わたしは世に対してはりつけにされているのです。割礼の有無は問題ではなく、大切なのは、新しく創造されることです。このような原理に従って生きていく人の上に、つまり、神のイスラエルの上に平和と憐れみがあるように。

これからは、だれもわたしを煩わさないでほしい。わたしは、イエスの焼き印を身に受けているのです。

兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊と共にあるように、アーメン。

## 説教

むかしの人たちは神を信じていました。特にユダヤ人は神の律法を守ることによって神を信じることを証していました。パウロがキリスト教宣教で苦心したことの一つに割礼問題がありました。神の律法を守るあかしの象徴的なあかしが割礼だったからです。たしかに割礼のあるなしで信仰の有り無しの見分けがつかず。

パウロはこのように割礼を否定しています。キリストの十字架はたとえばイエスの律法だ。福音こそがキリストの律法であり「すくい」なのだ。なぜパウロはこのような大胆な宣言ができるのでしょうか。

それはキリストの十字架によってすべての人の罪が赦されたからです。まったく罪のない無原罪の主イエス・キリストが生贄となることで神は世の人を赦されました。十戒を守る、律法に従って生活する、そんなことは主キリストの十字架の前では問題になりません。主キリストを信じる人はすでに神の赦しを受けています。

**割礼の有無は問題ではなく、大切なのは、新しく創造されることです。ガラテア**

主キリストを信じ、新しく創造されることが重要なポイントだとパウロは語っています。罪びとがキリストの十字架によって罪から解放される、つまり新しく創造された生まれ変わった自分になる、このことこそ大切だといっています。

新しく創造されるとはただ自分ひとりだけが新しくなるわけではないようです。主イエス・キリストは罪びとのわたしのために十字架にかかってくださいましたが、わたしだけが罪びとなのではなく、みんながみんな罪びと世の中の全員が罪びとです。主イエス・キリストの十字架は世の中の全員を新しく創造するためのものでした。

**十字架によって、世はわたしに対し、わたしは世に対してはりつけにされているのです。ガラテア 6:14**

神を信じる人たちにとっていままでの律法を捨て去ることは難しかったようです。イエスと同じようにパウロはその手紙をとおして律法との悪戦苦闘を後世に残しています。

ひるがえって現代はどうでしょう。キリスト教の布教の成果によりいわゆる律法は無効化されました。しかし、皮肉なことに宣教成果があがればあがるほどキリスト教は希薄になる傾向があります。また自然科学の発展で神よりも科学を信じることが常識になっています。主イエス・キリストの十字架による救いもバージョンアップして解釈する必要があります。世界は複雑になっています。ひらたいいかたをすればややこしくなっています。十字架の救いも世にならって複雑にするのではなく、単純に説明できる解釈が世界を救う方法なのでしょう。キリスト教のシンボルでもある十字架も捨て去る時期がきているのかもしれませんが。

-----